

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672800147		
法人名	特定非営利活動法人 水度坂友愛ホーム		
事業所名	グループホーム友愛		
所在地	京都府城陽市市辺内垣内4		
自己評価作成日	平成24年12月11日	評価結果市町村受理日	平成25年 4月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kanji=true&JigyosyoCd=2672800147-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年 1月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で、家庭的な雰囲気の中で共に暮らし、家族との絆を大切に尊厳ある生活を最期の看取りまで支援しながら、ご近所の方々との関わりを大切に地域密着型施設として生活を営んでいます。敷地内には、お地藏さまもあり夏祭りには地域の皆様とも交流し、子供達も沢山参加してくれます。また、地域の行事、盆踊り、社協のふれあい食事会にも声をかけてもらい年6回積極的に参加し交流しています。そのほか、城陽市の委託事業として認知症予防教室を歌のゆりかごと称して毎月当ホームで開催、地域に開かれた活動を継続して取り組んでいます。12月で95回目を数えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は法人理念の柱である共に暮らす事を大切に、日々の支援に力を注いでいます。利用者の家族への思いを家族に繋げ、正月などには家族と共に過ごせるように家に帰る事を支援し、家族会が集い家族の意見が事業所に伝わる仕組みで事業所と家族が共に利用者の支援を展開しています。事業所では、地域の就労支援事業所に清掃部分を依頼したり、外出や行事時にはボランティアの力を借り、対外的には認知症予防教室を継続的に行うなど地域の深い関わりが育まれています。職員は、日々の支援の中で利用者の思いを汲み取るよう心がけ、食事時の配下膳や畑の見回りや水撒き、季節毎の収穫を楽しむ等利用者の穏やかな日々に寄り添うなかで、利用者の笑顔を引き出しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、年度初めに理事長も参加し施設内研修を行い、その重要性を確認、日常的には毎朝朝礼でキャッチフレーズと理念を唱和し意識付けを行っている。新人研修にも取り入れている。	毎年理事長による研修で理念への思いを伝えると共に、毎朝項目ごとに唱和し職員の理解を深めています。日々の支援や行事ごとに、利用者の笑顔に繋がっているか、地域に開かれた事業所になっているかなど理念に沿った支援に向けて振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧版で情報を得ている。地域のゴミ収集の場所も敷地を提供し、ホームの行事にはチラシを配布し積極的に開放している。そして、地域の行事にも参加させてもらっている。	地域の運動会や敬老会、地蔵盆等に参加し、日々の散歩で近隣の方々と挨拶を交わすなど交流が深められています。認知症予防教室は回を重ね地域に定着し、事業所の夏祭りには多くの地域の方々の参加を得ています。幼稚園児を端午の節句などに招待したり、時には近隣の親子や職員の子どもの来訪で楽しい交流となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症予防教室(歌のゆりかご)をはじめ、地域の方々との交流を実践している。ホームの行事には地域への開放としてその都度、介護相談窓口を設けて支援に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告や予定、また委員の皆様の行事への手伝いもあり、地域との関わりを大切にしている。反対に、地域からの情報も取り入れることができる機会になってお互いに共有し合っています。	会議は多くの出席者を得て2ヶ月に1度行われています。事業所の報告と共に地域行事や情報が出され、活発な意見交換が行われています。ボランティアに対する意見や出席医師から感染症対策等の意見が出され、参加者それぞれの意見や問題提起に対して検討し、運営に反映しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政も運営推進委員会に参加、積極的に関わりをもち介護相談委員のかたも月一回の訪問を継続してくれている。	市職員は運営推進会議への出席があり、事業所の様子を理解頂いています。また、運営推進会議の議事録や事業所の通信等を市の窓口に届け、事あるごとに意見交換の機会を持っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年施設内研修を実施、寄り添うケアを大切に日々のミーティングや伝達ノートの活用でお互いに補い合い話し合いしている。	毎年身体拘束についての研修があり欠席者には伝達し、新聞等の記事を回覧するなど多くの学ぶ機会を持っています。不適切な声掛け等があればお互いに注意し合い、留意点等があれば連絡ノートで共有しています。玄関は日に中開錠し、利用者に出かけたい様子が見られた場合は付き添って出かける等、利用者の思いに寄り添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年施設内研修を実施、寄り添うケアを大切に日々のミーティングや伝達ノートの活用でお互いに補い合い話し合いしている。		

グループホーム友愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今の環境では必要性を感じず、勉強会もしていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族の意見や疑問を大切に、丁寧に対応させて頂いている。また、十分説明し納得の上で契約を行い、ご利用していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	友愛ホーム家族会が年4回開催され、意見交換されている(次は12月22日の開催予定) また、ホームの行事の際、参加した家族とスタッフの意見交換会をおこないお互いの考えを素直に出し合うよう努めている。	日常的に家族の関わりは多く、家族会から意見を聞いたり、面会時や行事の後には家族交流会の機会を開き意見を出してもらう機会となっています。また、アンケートを取り結果を集計し、車で出かけるときの注意点等の意見が出され、職員間で検討し実践に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回、運営会議を開催し、理事長はじめ各部署の代表が意見交換し反映させている。また、センター毎にケア会議を毎月一回開催し課題の解決とケア向上に努めている。	会議では職員の意見交換が活発になされ、更に検討を要するような時には法人の運営会議の議題に乗せ運営に反映する機会となるようにしています。職員から出される意見の多くは利用者への支援も多く、介護計画に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長は必ず現場に顔を出し、コミュニケーションを取っている。スタッフや利用者に声をかけ、各自が向上心を持つように働きかけをしている。スタッフの外部研修にも積極的である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や施設内研修を年間計画として挙げ、職員のレベルアップに努めている。それらは実践に結び付くよう役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	城陽市の地域密着型サービスネットワークに参加、今年度よりセンター長、管理者だけでなくスタッフも参加している。他の事業所との交流を図り意見交換で同じ目線で共有し、レベルアップ出来ている。		

グループホーム友愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員に入居者担当をきめ、その利用者本位のサービス提供に取り組み、プランづくりと個別での対応を可能にし、個人をたいせつにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後、家族とともに協力と援助して頂けるように、必要に応じて連絡を取り対応している。本人、家族の希望を大切にしながら関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議を開催し、本人、家族の希望を当ホームの理念を照らし合わせ、支援内容を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自立を中心に支援を考えその人らしいプランを考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念の中に、家族とともに掲げ、共に利用者を支えあうことを念頭に置き、外出、外泊をしていただき家族の役割を明確にした支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出などにより、馴染みのある方との交流、住み慣れた場所への外出を心がけ大切にしている。	友人や近所の方の来訪があり、声かけで再訪してもらえるよう声かけしています。階下のデイサービスに幼馴染が利用されている方には、一緒に利用する等馴染の関わりを大切に支援をしています。利用者の地元の神社に初詣に出かけたり、行き慣れた商店やスーパーにも個々の要望に応じて出かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごしたいという希望がない限り、家事を手伝ってもらったり、居間にて一緒にレクリエーションを図っている。		

グループホーム友愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所、死亡などで終了したとしても、家族から連絡や相談を受けやすい関係を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を把握できるように、担当者会議を開き、プランに反映できるようにしている。入居者の様子に変化があればメンバーと検討し、ケア会議でも検討するなど工夫している。	入居時には利用者や家族から今までの暮らしや生活への思い等を聞いています。意向の把握の困難な方には日々の会話を基に検討したり、家族から情報を得たりしています。再度の聞き取りを重ねる中で、今まで見えなかった部分や意向が明確になった場合もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フエースシートを作り、本人や家族の声を大切にしている。また、本人への聞き取りや家族への聞き取りシートを使用し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サマリーなど、記録を残し日々把握し、変化を見逃さないように注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	年2回の担当者会議や日々の面会時等により、それぞれの変化に伴い個々の様子をスタッフ間で検討し、プランに反映している。	介護計画は、家族を交えたサービス担当者会議の開催で意向を反映して作成されています。担当職員を中心にモニタリングがなされ、3ヶ月ごとに検討しまとめられています。看護師による医療情報や医師の意見等を反映し、6ヶ月ごとの見直しを行っています。見直しに当たっては家族参加の担当者会議が開かれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を必ずつけ、情報を共有しスタッフが声を出し合い、チームケアに努めプラン作りに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常日頃より、家族と連絡を取り合い、入居者の希望をつかむよう努めている。		

グループホーム友愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアさんの協力や行事への参加により顔見知りの方との交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期健診は、主治医自らの往診が月二回、その他、歯科医、接骨院の往診もある。	入居に当たってかかりつけ医の継続を聞いています。精神科や皮膚科など以前からのかかりつけ医を継続されている方もあり、家族による受診がなされ、受診情報を家族から聞いています。協力医による月2回の往診や24時間の対応がなされ、看護職員による指示で適宜に対応できる体制にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当ナースの配置で対応と緊急連絡体制の整備で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との連携体制があり、その関係は良い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当者会議の実施。利用者の変化、様子を話し合っている(入居者、家族、ナース、担当者)	看取り指針に基づいて事業所の出来る事等を家族に伝えると共に意向を聞いています。家族の意向を受けて看取りの支援がなされ、家族が泊まり込む等職員と一体となって看取りの支援を行った経験があります。看護師による職員への研修を行い、利用者の重篤化の中で、具体的な介護方法を検討し支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修などで勉強会の実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内研修などで勉強会の実施。また、年二回の避難訓練(内一回は夜間を想定した2人体制)を実施している。	法人一体で年2回昼夜を想定して避難訓練が行われ、更に事業所単独でも、2ヶ月に1度放水訓練等消火器活動を繰り返して行っています。運営推進会議や家族会、地域にも協力を依頼し参加を得ています。	

グループホーム友愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修などで勉強会の実施により確認、また、個別対応の実施。	プライバシーについて毎年研修計画に位置付け職員の理解を深めています。大きな声を出さないように配慮し、あいづちを打つ事や急がせない等標語を作り利用者に寄り添う支援を心がけています。不適切な対応等があれば互いに注意し合ったりミーティングで振り返り気づきを促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別対応の実施(美容院、外出、買い物)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の思いを優先し、個人のスタイルを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望に沿った身だしなみ、お化粧等支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを大切にしたり、食事作りや後かたづけの手伝いもらっている。	日々の会話で好みや食べたいものを聞き、献立に反映するようにしています。皮むき等の食事の下ごしらえ等、利用者の出来る事に関わって頂き、畑の収穫を楽しんだり、時には近隣の方々からの収穫物の差し入れもあり豊かな食生活に結び付けられています。時には庭やウッドデッキで食べたり、出前を取ったり、外出時には外食を楽しむこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の記録にて体調をみている。その他体重の変化も見逃さないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施で清潔を保っている。		

グループホーム友愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の声かけでトイレ誘導。不穩時の気づきの声かけによるトイレ誘導で自立支援を行っている。	布パンツとパッドで過ごされる方も多く、排泄チェック表や仕草によりトイレへの誘導を行うことで失敗の無いよう支援しています。夜間は睡眠時の安心に向けて、紙パンツを使用される方もあり、其々の状況に合わせ、利用者の意志を尊重して支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食事のヨーグルト、個別の飲み物、便秘体操の実施。主治医の指導のもと服薬をナースとの連携で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や心の様子等により対応している。	利用者の意向に沿った入浴支援になるよう心がけています。週3回を目途に支援し、基本的には就寝前の入浴で、利用者の希望に合わせています。近隣から届いたゆずでゆず湯を楽しんだり、時には入浴剤を使用しています。入浴は職員とコミュニケーションをとりながらゆっくり入れるように心がけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に昼寝の導入をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、担当ナースの指示により服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品の把握により、個別対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力、地域の行事への参加を積極的に行っている。日常的にテラスやベンチ、天候の良い日には散歩も行っている。	天気が良ければ日々散歩が出来るようにと考え、畑や庭、ウッドデッキなどでの外気浴も大切にしています。季節毎に梅や桜、紅葉などを見に出掛け、家族を誘っての外出を企画し楽しみ事となっています。	

グループホーム友愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物や外食をしたりして本人のお金であることを意識してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、連絡をとれる対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みの物、手作り作品、また、季節の置物それぞれの環境(夏のすだれ等も)づくりを工夫している。また、居間に当たるいこいの場合は照明を暖かい色にしている。	季節の花が随所に活けられ、利用者や職員の手造りの作品や共同で作った飾り物などが掲示され落ち着いた共用部分となっています。加湿器の設置と共に日に一度は窓を開け放ち外の空気を取り込み、温湿度の管理を心がけ、感染症予防にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々人の希望を聞き入れ対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の話し合いで自宅で慣れ親しんでいた家具を使い、小物等を持参し飾ったりして安心感をもってもらっている。	入居時には家族と共に居室の設えを考えてもらい、居心地良い環境となるように配慮しています。身体状況等によって配置を変え安心に繋がるように工夫をしたり、テーブルや椅子等これまでの生活のイメージが変わらないよう配慮しています。趣味の作品や人形、家族写真等利用者にとっての安心に繋がるものを配置するようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面を考えた自立できる環境づくり、手摺り、歩きやすいレイアウトの工夫や滑り止め付き靴下カバーを職員も含め、入居者と同様に一体感で家族を演出し気持ちの上でも安心感を与えている。		